



新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止のための活動報告No.8

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、熱中症対策も相まって、本当に命にかかわる様相を呈してきました。しかし婦人会では、COVID-19と上手に付き合うためにさまざまな活動を続けています。

そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介します。

<一般財団法人長崎県地域婦人団体連絡協議会>

長崎県では、県下の各市町にある婦人会にマスクと雑巾の作成を依頼し、各施設へ無償配布しました。

まず、県下各市町に作成を依頼したマスクについては、各市町の婦人会員がそれぞれ3密を避ける工夫をして、マスクを作成し、地元の小中学校や教育委員会、施設等に配布しました。ごく一部ですが、地元紙に掲載されたものを抜粋します（写真1）。

また、雑巾についても県下各地区へ依頼し、一般財団法人長崎県地域婦人団体連絡協議会事務局に送ってもらい、日赤長崎県支部へ8月4日に会長が代表して寄贈しました（写真2）。寄贈した雑巾は、日赤長崎原爆病院と日赤長崎諫早病院に配られる予定です。また、医療関係者へ謝意を伝えるため「コロナと戦う皆様に 感謝の気持ちを込めて」と題したメッセージを届けました（資料）。



写真1 地元紙に掲載されました

左から千々石婦人会、島原市白山婦人会、東彼川棚町婦人会の皆さんの紹介



写真2 地元紙に掲載された西山会長（左端）

資料 感謝のメッセージ

看護職の皆様へ

コロナと戦う皆様に 感謝の気持ちを込めて

私たちは、県内の子どもと子育て家庭を守るために、今年度から地域において声かけ活動をしようと繋がった女性たちのチーム「長崎ひまわりプロジェクト」(延べ12万人)です。昨年度発足した「長崎ひまわりプロジェクト」には長崎県看護協会にもご参加いただいております、そのご縁から、看護職の皆様への仲間意識を強く感じているところでした。

今回、新型コロナウイルス感染症関連のニュースを見るにつけ、最前線の現場で、新型コロナウイルス感染症と戦いながら、人々の命を守ってくださっている皆様と祈る気持ちで送りだされているご家族のことを思うと、居ても立ってもいられずに、感謝の気持ちを届けたくて一筆致しました。

医療関係の皆様には感謝の気持ちを届けようと、世界中の方々の拍手や歌や鐘等が響き渡っています。日本では「上を向いて歩こう」の歌やさだまささんの激励の歌などがネット上で高まっております。

長崎に住む私たちは、長崎の市民・県民の命を守ってくださる皆様のお姿に感謝の気持ちで注目しています。ニュースに写しだされる見える画像から、見えないご苦労や背景をしてお気持ちを必死に汲み取ろうと努めています。

お仕事上での恐怖を超えた使命感や責任感に対する感謝や激励の気持ちは勿論のことですが、子どもを残して仕事に出かけられるお気持ちはいかに後ろ髪をひかれ、迷いに襲われる日々ではないかと心中をお察いたします。また、残念なことに、心無い言葉が皆様やご家族の方々にまで投げかけられたりすることがあるとお聞きすれば、本当に許しがたいことです。正しい認識と冷静な行動のためにも、私たち女性たちのネットワークにおいても、十分目配りと配慮をするよう呼びかけ、努めてまいります。

今後、私たちにできることは、「3密」や外出を避け、少しでも医療現場を混乱させないよう自己管理に努めていくことだと思っております。

専門性の高い皆様ではありますが、どうかくれぐれも、ご自愛のうえご無理をなさらぬようお願い申し上げます。

「長崎ひまわりプロジェクト」一同、一国も早い終息と皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます、感謝の気持ちをお届けいたします。

長崎ひまわりプロジェクト世話人一同

代表：長崎県地域女性団体連絡協議会会長 西山 智子